令和４年度　第１回　垂水市総合教育会議

1.　日　　時　：　令和　４年　11 月 18 日（金）　10：30　～　12：00

2.　場　　所　：　垂水市市民館２階　大会議室

3.　会　次　第　：
１．開　会
２．市長あいさつ
３．渡邉准教授の紹介
４．協　議
（１）「GIGA スクール構想」について
（２）意見交換
（３）その他
４．閉　会

4.　出　席　者　：
・尾脇市長　・渡邉准教授　・坂元教育長

5.　教育委員会同席者
・田原教育委員　・葛迫教育委員　・田之上教育委員　・福里教育委員
・野村教育総務課長　・今井学校教育課長　・港社会教育課長　・米田国体推進課長
・小池主幹兼庶務係長　・冨松庶務係主事補　・永倉学校教育係指導主事　・今村学校教育係指導主事

6.　傍　聴　者　なし

7.　事　務　局　：
・二川企画政策課長　・羽生主幹兼政策推進係長　・隈﨑政策推進係主事

企画政策課　…　皆様、こんにちは。

二川課長　定刻になりましたので、ただいまから、令和４年度第１回垂水市総合教育会議を開会します。本日の会議の進行を務めさせていただきます、企画政策課の二川と申します。よろしくお願いいたします。

本会議は、市民の皆様への説明責任を果たすとともに、その理解協力の下で教育行政を行う趣旨を徹底するため、原則として公開で行うこととされていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに、尾脇垂水市長にあいさつをお願いいたします。

尾脇市長　…　皆様、こんにちは。垂水市長の尾脇でございます。教育委員の皆様方におかれましては、日頃から本市の教育行政の活性化のために、教育関係の諸行事への参加や、学校教育活動への助言等をはじめ、重点事項をご審議いただいておりますことに、あらためて感謝を申し上げます。

現在、コロナ禍の様々な影響のもとにおける生活も約３年半を経過いたしました。「新しい日常」とも言えるウィズコロナの時代にあって、教育現場におきましても様々な課題が確認されており、これらの課題に坂

元教育長をはじめ教育委員会が中心となってICT機器を効果的に活用し、質の高い授業を展開するなど、さらなる教育環境の充実や教育活動の工夫・改善のため、日々取り組んでいるところです。

令和３年度から本格的に始動した、本市の「GIGA スクール構想」でございますが、県内でもトップクラスの先進的な取組が行われており、ICT教育の環境整備の充実が図られております。

本日は、本市のGIGAスクールアドバイザーでいらっしゃいます、鹿児島女子短期大学准教授の渡邉光浩様にお越しいただいております。渡邉様におかれましては、「垂水らしい GIGA スクール構想」の推進のために教職員や保護者を対象とした講演会等で、専門的な知見による助言等をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

本日は、本市の「GIGA スクール構想」について、先進地視察の報告や今後の方向性等について教育委員会より説明がございます。その後、１人１台の端末をさらに効果的に利活用しながら、学校での授業がどのように改善され、また、子供たちの学びがどのように深まり広がっていくのか、生活がどのように変わっていくのか、などにつきまして、意見交換をおこなわせていただきたいと思いますので、教育委員の皆様より忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

結びに、本市の教育がさらに充実し、日本や世界で活躍する子供たちの育成へと繋がるよう祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

企画政策課　…　それでは、本日、垂水市 GIGA スクールアドバイザーでいらっしゃいます、鹿児島女子短期大学准教授の渡邉光浩様のご紹介です。
二川課長

坂元教育長　…　私のほうからご紹介いたします。鹿児島女子短期大学准教授、渡邉様でございます。元々は中学校の先生で、宮崎県都城市を核として教育実践を積まれていらっしゃいました。若い頃からICT教育に堪能で、これを使って授業を変えたいということで、ご自身の知見、経験に基づかれた具体的で分かりやすい指導を大学でもされているとお伺いしております。また、本市におきましては、垂水市 GIGA スクールアドバイザーとして、学校の中に入って子供たちの学ぶ様子を見ながら、先生方に具体的な指導をしていただいております。また、保護者向けの講話もしていただきながら、これからも本市の GIGA がもっと特色を出して力強く前に進めますようご指導いただけることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

渡邉准教授　…　よろしくお願いいたします。

企画政策課　…　それでは、協議事項に入りたいと思います。

二川課長　ここからの協議事項に関する進行は尾脇市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

尾脇市長　…　それでは、まず、協議事項（１）「GIGAスクール構想」ついて、学校教育課の説明をお願いします。

学校教育課　…　皆様、こんにちは。これから、垂水市の「GIGA スクール構想」の現状
今村指導主　についてご説明申し上げます。よろしくお願いします。
事

垂水市における GIGA スクール構想の理念である、「結果」を大切にした教育の「原点」を見失うことなく、新しい学びへの形を「創造」し、子どもが主役の授業への転換を進める中で、市長もよく話されている「ピンチをチャンス」にという言葉を念頭に置きながら、教育委員会としまして授業改善・業務改善の一体的な推進を行い、教育の質の維持・向上を図り、学力向上と教職員の働き方改革の実現を目指してきました。「結果」・「原点」・「創造」は本市の GIGA スクール構想の整備段階での合言葉でした。

目指す子供像として、基礎学力の定着、適切なコミュニケーションで他社と協働し、合意形成できる子どもを育成し、将来 ICT 機器を使いこなした上で新しいことを創造し、課題を解決しながら地域や世界に貢献できる人材育成をしたいと考えております。本日はご覧のような６項目について説明したいと思います。

まず初めに、第５回日本 ICT 教育アワード協議会会長賞受賞について説明します。日本 ICT 教育アワードとは、全国 ICT 教育首長協議会が毎年表彰する制度で、今回は全国から 79 自治体の応募がありました。垂水市は昨年度からの、学校と行政が一体となった GIGA スクール構想の取り組みが評価され、加盟自治体ではございませんが受賞することができました。全国 ICT 教育首長協議会の設置理念は資料のとおりでございます。

本年度はご覧のとおり、９つの自治体が表彰されております。文部科学大臣賞の東京都渋谷区は、スマートシティ推進基本方針を策定し、区長部局の ICT 関連部署と連携し、あらゆる教育データを集約した活用を深めておりました。総務大臣賞の富山県氷見市は、ICT とスクールバスを活用し、ハイブリッド型交流で小規模校のハンデを克服した取り組みでございました。経済産業大臣賞の奈良県生駒市は、2020 年度にキャリア教育プランナーをプロ人材として採用したり、2022 年度には鎌倉市の小中私立一貫校で ICT 教育の先進事例を作り上げてきた教員を教育指導課に社会人枠として採用するなど、ICT 機器を活用するための人材確保を積極的に行っておりました。

垂水市は、誰一人取り残さない GIGA スクール構想により、タブレット端末の持ち帰り前提や AI ドリル、生活面での活用促進、遠隔合同授業を４本柱に掲げた端末整備と地域に応じた Wi-Fi 環境整備、教員の自主研修団体の立ち上げ、本市 ICT アドバイザーである鹿児島女子短期大学の渡邉准教授をはじめとする大学との包括連携協定等による取り組みが評価され、鹿児島県では初めての受賞となりました。全国 ICT 教育首長協議会の会長である佐賀県多久市の横尾俊彦市長から、協議会会長賞の賞状を受け取りました。画面右下の写真は受賞者、事務局、来賓が登壇しての記念撮影の様子です。来賓として、文部科学副大臣、総務省政務官、経済産業省政務官もいらっしゃいます。長峯誠政務官は元都城市長であ

り、尾脇市長に大変お世話になりました、ということでございました。受賞者全ての自治体が５分間の実践発表を行いました。本市は坂元教育長自ら本市の取組をプレゼンで紹介しました。その様子を短い動画でまとめましたのでご覧ください。ご覧のとおり 300 名ほど入る会場でございまして、受賞された後に教育長が５分間の持ち時間のもと、大型スクリーンに映しながら、垂水市の紹介も含め、GIGA スクールの取組状況を語られておりました。本市は、先ほども申し上げた通り、授業改善・業務改善を一体的に推進した取り組みを紹介していただいております。

続いて、利活用状況について全国・県との比較をしていきたいと思います。ご覧のような円グラフが４つのシートで出てまいります。最初にグラフの紹介をします。左側が小学校６年生、右側が中学校３年生の全国学力学習状況調査における生徒児童質問肢でございます。一番内側の円が全国、真ん中の円が県、一番外側の円が垂水市でございます。そこで、「ほぼ毎日」が濃い青色、「週に３回程度活用している」が薄い青色、というようにだんだん薄くなっていきます。まず、前年度、小学校６年生であれば５年生、中学校３年生であれば２年生のときに、授業で ICT 機器をどの程度使用しましたか、と子供たちに聞いています。垂水市は 31.9％の小学生、27.4％の中学生がほぼ毎日 ICT 機器を前年度活用していたと回答しています。これが全国・県に比べてどうなのかというと、ご覧のとおり全国・県を小学校でも中学校でも大きく上回っています。週３回まで入れると、かなりの利用頻度になっております。続いて、授業中の場面について質問されています。授業中に自分で調べる場面でタブレット端末をどの程度使用しているか、という問いに対して、小学生は 13.9％、中学生は 9.5％と、全国には及びませんでしたけれども、鹿児島県はオーバーしている現状でございます。あともう少しで全国に追いつくという状況です。学校の友達と意見を交換する場面、チャットとか書き込みなどでどの程度使っているか、という質問ですが、小学生は 12.9％、中学生は 2.4％というふうに、小学校では大きく全国・県をオーバーしておりますが、中学校ではこの辺のやり取りの部分については情報モラルの教育、それらを踏まえた上での取組になりますので、少し抑えられたというところです。最後に、自分の考えをまとめ、発表する場面でどの程度使っていますか、という質問では、小学生が 15.3％、中学生が 3.5％と、この部分については学習がある程度まとまらないと、このような発表ができない、私も実施しないと発表できないのと同じで、４月から実施し始めたところでなかなかまだ進んでいないと全国的に捉えられています。

続いて、昨年度から本年度にかけての本市の活用状況の変化について説明いたします。先ほど活用状況でも紹介した今年４月の全国学力学習状況調査の学校質問肢と、去年９月の端末利活用状況調査の２つのデータを比べることで、同じ子供たちがどの程度利活用したかと見ることができます。「ほぼ毎日」と回答した学校の割合を４枚お示ししたいと思い

ます。授業でICT機器をどの程度使用しましたか、４月は71.4%でしたが87%へ15.6%上昇しております。自分で調べる場面でどの程度使用しているか、50%から62%へ12%上昇しております。自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、先ほどのデータでは課題があるかなとなっていたところですが、４月はやはり37.5%でしたけれども、９月は62%というふうに向上しております。先生方の意見としては、ロイロノートやジャムボードを活用することにより、リアルタイムに友達の提案や発表を知ることができたり、共同編集等でその場でコメントを送ることができたり、自分の考えを修正でき、学びの質が向上しつつあると、手ごたえを感じているということでした。最後に、児童生徒がやり取りをする場面で、こちらも先ほど課題があるとお示ししたデータですけれども、今では「ほぼ毎日」と回答されております。お互いの考えを文章や図で共有することで、相手の考えをより理解することができ、それを基に自分の考えを府広げたり深めたりすることができたという、先生方からの感想がありました。このように、いずれの設問でも活用率が向上しておりますが、私共はこの結果に満足することなく、学校とさらに連携を深めながら子どもたちのために取組を進めてまいりたいと思っております。その他、GIGAスクール端末の導入による児童生徒の変容について自由記述を求めた結果、学習に対する意欲面の高まりが見られた、授業中に提出できなかった（終わらなかった）課題や振り返りの感想などもその日に自宅に帰ってからでも教科担任へ提出（送信）できるようになった、授業と家庭学習を連動させることで反転学習等の新たな学びも生まれてきた、などの教師からの感想がありました。そして、課題解決の意欲や思考力・判断力・表現力がついてきている、調べ方の幅が広がり情報を活用する力がついてきている、考えをまとめたり意見を発信したりする力がついてきている、といった児童生徒の学びにおいて変化が見られているようでした。

４番目は、全国の先進地（愛知県春日井市）の視察から報告いたします。まず、愛知県春日井市というまちですが、人口31万人、名古屋市のベッドタウンとして「子はかすがい、子育ては春日井」のキャッチフレーズのもと、子育て世代が多く住む新興住宅都市でした。約20年前から「教育の情報化」に取り組み、10年前から学習規律の徹底、ICT機器の日常的な有効活用に取り組んでおりました。研究の成果を「かすがいスタンダード」として市内全校に水平展開しており、小学校37校中学校15校のうち、小中学校それぞれ３校が公開授業を実施しました。全国大会の主催である日本教育工学協会について、学校教育にかかわる教員・研究者・企業が教育工学研究を通して、広くその成果を共有し、普及啓発活動をもとに、わが国の教育の向上に資するために組織化された団体です。公開授業６校57授業、基調講演、公開校の指導者によるシンポジウム、研究結果29分科会134本、企業・団体ワークショップ、企業展示30社と、２日間に渡る公開授業でございました。これが公開授業の様子で、

左が藤山台中学校１年生の英語の授業、右が高森台中学校１年生の社会科の授業、いずれもタブレット端末が文房具のように机の上に常に置かれて、時にはこういうふうに端末を自由に持ち歩いて子どもたちが学びを深めているという授業公開が行われました。そこで私が最も印象に残ったのは、中学生のタイピングのスピードでした。聞くよりご覧いただいたほうが早いと思います。左側が垂水中央中学校１年生の男子生徒が授業中に打っている場面で、タイピングしなさいと言っているのではなく、授業中に何げなく打っているところを撮ったものです。右側は理科の授業中に藤山台中学校２年生が打っている場面です。こちらもグループの結果をまとめて入力する場面です。まずは中央中の方からご覧ください。このスピードです。次は藤山台中学校です。単純に２年生と１年生の違いではないのはお分かりかと思います。だいぶスピードが違いますね。藤山台の方は10年間取り組んでこの成果です。こちらの２年生の生徒は小学校 1 年生のときからタブレット端末を活用してタイピングを練習してこの形になっています。垂水中央中学校については昨年度からタブレット端末が入りました。1年間でよく来たなという見方をしていただけるとありがたいです。目指すところは藤山台中学校のスピードかなと思います。自分の考えを表現するのに支障にならない程度のスピードで入力できる、これを目標に我々は取り組んでいます。

５番目は授業観のパラダイムシフトということで説明したい思います。パラダイムシフトとは、その時代や分野において当然のこととして考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが、革新的・劇的に変化することです。要は、垂水市の小中学校に勤務している先生に、これまで行ってきた授業通りではなく、タブレット端末を活用した大きな変革が必要である、という強いメッセージを送りたいと思いましてお配りの A3 用紙の資料を作成しました。全体図は資料のとおりです。左上は ICT 機器の具体的な活用場面、左下は教師が主体的に学べる研修資料、右上は教育の不易学習の基本的なしつけ、こちらは以前作成したものから一部抜粋しました。右下は子供の情報機器活用能力の向上ということで、子ども自身が使って学べるところの QR コードを表示しております。一つ一つ拡大して見ていただきたいと思います。まず左上は、学習者主体の授業スタイルのパラダイムシフトということで、教師主導の授業から学習者、児童生徒主体の授業スタイルへ変革するために具体的な ICT 機器活用場面も設定しました。これによって主体的・対話的で深い学びのある授業に変革ができるのではないかということで作成しています。また、学校での学びと家庭での学び、本市は持ち帰りを前提としておりますので、学校と家庭の学びを繋げる一つの ICT 機器の活用ということで提案しています。学びに向かう人間性を育むための授業の振り返りとそのデータ（ログ）の蓄積。教職員サイトへの QR コードへのアクセス。まずは教師が主体的に学べるようにインターネットで検索する手間を省くために QR コードで提示しています。右上の方は、ICT 機器が教育現場に導入

されても、子どもの「学ぶ姿」が大切であること。鉛筆の持ち方であったり、姿勢であったりは ICT 機器が入っても変わりません、というメッセージを謳いました。ただし、それらは日常の学習習慣でしか確立しない。長い時間をかけて同じように指導していかなければ、子供たちには定着しないということを強調しています。最後右下の方は、タイピングや学習支援ツールの基本的な情報スキルを身に着けるための解説動画、これは子どもたちが検索してみることができるように提示しています。最後に、一枚の写真をご覧ください。こちらは新城小学校の社会科の授業風景で校長先生が気に入っていらっしゃる写真だそうです。一番手前、子供がタブレットを使って一枚にまとめています。教室の前方、黒板の前では、まとめたことをもとに子供同士の対話が始まっているようです。まさにデジタルとアナログ、タブレットと黒板が融合された場面の一つです。さらに、右側の教師は児童生徒の主体的な学びを見守る伴走者のような役割です。そして右奥の女子児童は自分のこだわりを持って一人でじっくり考える、こういう児童もいました。今後このような授業が市内すべての学校で見られるように、教育委員会として取り組んでまいります。

６番目は令和５年度への展望です。令和５年度は中学校技術分野で必修化されているプログラミング教育と、これまでの「ふるさと垂水」を結び付け、中学生による垂水のよさを世界に発信できる取り組みを行いたいと思います。小学校から高校までの情報という教科では段階的な学習の深まりが求められております。そして、教職員及び児童生徒の ICT スキルをさらに向上させるために、垂水市独自の検定を実施、認定することで全体的なスキルの向上を図りたいと考えております。

本日は以上の内容で発表させていただきました。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

以上で終わります。

尾脇市長　…　それではこれから（２）意見交換に入りたいと思います。その前に一言、今ご説明をいただいて、非常に教育長を中心に短期間で頑張っていただいていると実感しております。先ほどありました、まさに「ピンチをチャンスに」という背景だったと思います。コロナがこの分野においてはプラスに作用したと思います。垂水市においてはその前提となる通信インフラの整備がなされておりませんでしたので、今回コロナの交付金を活用して柔軟に対応できるように森山先生に相談して約３億円の予算で通信インフラの整備ができた、その上に乗っかってこの GIGA スクール構想が加速度的に進んでいったということです。そういった中で、常に教育長に、子育て支援、教育の充実は抜きんでて頑張っていただきたいとお話ししておりまして、まさしく客観的な評価で、全国で５番目と、加盟をしていないのですがそのような評価をいただけるまでに進んでまいりました。さらに地方にあって、もっとそれが良い形で更に発展していくことを思いながら、本日ご出席の渡邉先生にもご指導いただきなが

ら、意見交換に移らせていただきたいと思います。今説明がありまして、非常によくできた資料で、完璧に近い説明でありましたけれども、只今の説明につきまして自由なご意見をいただきたいと思います。

田之上委員、お願いいたします。

田之上教育委員 … 率直にすごくいい方に進んでいるなあと思います。学校を回らせていただいている中で、いい感じに進んでいるけれども、やはり学校・学級・子供間に格差が見られて、心配なのは格差が今後広がっていくのではということがあります。積極的な指導者がいらっしゃるところと、苦手な先生や新しく来られた先生とか、そういうところで子供たちに差ができてしまうことを心配しています。

学校教育課 今井課長 … まず全国を視察させていただく中で、垂水市自体が全国に劣っているとは一切思っておりません。全国的な格差はないと断言できると思います。ただ田之上委員が言われましたように、学校によって取り扱いが違うところが見られてしまうというのが、本市のこれからの課題です。それにつきましてはやはり、経験差というふうに捉えています。格差ではなく。ICT を活用すること、そのような授業改善が授業を進めやすくする一つの手段であると、先生方にもっと理解していただきたい。使う先生はどんどん使われる、苦手な方には苦痛でしかないと捉えられているのですが、少しずつ解決していっているところです。ロイロノートはこうすればいいんだねと、教師が実感することが進める第一歩と捉えておりますので、これが全く進んでいない状況は改善されています。どの先生方も使ってはおられます。ただ持ち帰りについては差があるというのは、私どもの方でもしっかり掴んでおりますので、その改善に向けて今後取り組んでいきたいと思います。持ち帰らせない先生方は、もし何かあったらどうするのかと、やはり垂水市はいろんなところを開放しておりますので、どこでも動画を見ることができる、動画ばかり見て勉強に全然役立たないのではないかと不安を持たれています。そこは何かというと、保護者の理解だと思います。小規模校で保護者とのやり取りができているところは進んでいます。できていないところはまだあと一歩、二歩だなあと感じております。今見えてきている課題が私どもも掴めましたので、これから少しずつ改善していけたらと思います。また、教師の授業力の差もありますので、そこは教育委員会の責任であると捉えておりますので、先生方の授業力アップもしっかり研修していきたいと思っております。以上でございます。

坂元教育長 … 課長から今ありましたが、渡邉先生とお話しする中で出てくるのは、やはりリーダーシップの発揮です。管理職、いわゆる校長・教頭がどれだけ想いをもってこの事業に取り組むか、そしてその熱をどう教師に伝えるか、その教師がどう子供へ伝えるか。いい流れを作っていかなければならないと思います。そこの温度差があります。ただこのことについては、先ほど説明がありましたように差が縮まってきております。やはり教師が良さを体感していかないといけないですね。子供はやりたいわ

けですから。その想いに応えらえる、そんな授業を作っていく必要があると思っています。魅力ある授業を作っていくための認識を改めて持っていただいて、積極的にどんどん使っていただきたいなと思っています。我々もどんどん学校に入っていき、好事例を集めながら、こうしていけばいいよと指導もしていきたいと思っています。そうすることでしっかりと裾野を広げていければと思います。

尾脇市長　…　ありがとうございました。今、田之上委員からご指摘がありました。差が無いようにできるだけやる、ということは当然のことで、その過渡期にあるということですよね。GIGA スクール構想は教育の在り方の大きな変革ですので、今までは教師生活何十年の経験みたいなものが優位だったのが、むしろ GIGA スクールに関しては若い方が使いこなしている状況もあります。今回全国で５番目の評価をいただいたということは、全国的には先進地なんだと。しかし北から南まである中で、学校間の格差、教頭・校長・指導教員のこれまでの経験値がスタート段階になっていますから、差が出てしまうのはしょうがないけれども、これをしっかりと標準化して、ハードの部分をどうカバーしていくか、これからの課題だと思います。そうしていくと春日井市のような形で、まあ 10 年やっているのでこの差は経験値でしかないんですよね。時代の流れなので後戻りはしませんから、前に向かってしっかりとツールとして使っていければと思います。

では、田原委員、お願いします。

田原教育委員　…　はい。学校訪問を通して、子供たちがいきいきと取り組んでいる姿を見て感動を受けています。水之上小の 1 年生が大変印象的でした。これからタブレットを開きますよと言われると、わくわくしていました。そんな姿を見ていると、やはり低学年のときから取り組まないといけないんだなと、目の当たりにしたのですけれども、そういう意味で各学校それぞれがしっかり取り組まれるといいなと思います。それから、中学校になってくると、先ほど使い方の差というものがありましたけれども、その先生の活用方法でも違ってくるし、子供たち自身にもやはり差があるのかなと。中学校の国語の授業で、それぞれグループで考えをまとめて、タブレットを持ち寄って話し合う場面があったのですが、ちゃんと打ち込んで持ってくる生徒もいれば、画面がそのままという生徒もいて、そのグループの中で取り残されている。子供の中でもそういうことがあって、それは使い方の差なのか、それとも国語の授業の内容で困っているのかよく分からなかったですけど。それを考えればやはりリーダーシップの力も大事ですけれども、今まで培ってきた経験も大事で、ベテランの方々はタブレットについてはそれほど分からないかもしれないけど、授業に対するノウハウは蓄積しているわけですので、そこと活用力とうまく結びつけられれば、両方のいい面が活かされるのではないかと思います。ベテランの先生たちも引っ込んでいる場合じゃないという思いを持ちます。

尾脇市長　…　非常に重要なことだと思います。本来、授業の中身に関しては経験値を活かしていたけど、それを表現するツールとしてなかなか使いこなせない。どうやってうまく融合してやっていくかということに関して、教育委員会のほうで考えがございませんでしょうか。

学校教育課今井課長　…　今のご指摘のとおり、私どももそれを一番の課題と捉えています。若手もベテランもそれぞれの研修で、この場面はこの方が講師で、両方がうまくこうできないかなと。そしてベテランは、こうしたいんだけど、というときに、こういう使い方がありますよ、というふうに研修で繋げられないかなと思っております。まず自分で考える、ペアで、グループで考える、というのが基本的な学習のスタイルになっていたのですが、この２年間コロナで、ペアで話すのも駄目、グループなんてとんでもないという話が続きましたので、先生方もまだ抵抗があるみたいです。マスクはつけてるけど向き合ってしゃべったりはお試しで行っていたりします。それが解放されれば違ってくるかと思いますが、グループでの活動がなかなかうまくいっていない現状があるということを痛感しています。グループ内にリーダーがいて、意見を聞いていく、タブレットに打ち込んで、その一つのタブレットをみんなで見て議論する、という風にできてくるとまた活発になると思います。コロナが全てではありませんが、影響を受けていることは間違いありませんので、今後この形をどう変えていくか、授業をどう改善していくか、若手もベテランも共有しながら課題解決に向けて進んでいくことが今後ますます求められていると思います。以上です。

坂元教育長　…　若い人からベテラン層までの研修団体があります。毎月第２土曜日に研修会を開いております。そこに入ってこられる先生方は非常に意欲的です。その意欲的な先生方が、まさに垂水市の核となっていくと思います。また、子どもの適正という面では、小規模校では案外いいんですね。なぜかというと複式の場合は教師、つまり直接指導が入るということと、子どものリーダー、間接指導がいる状況で授業が行われます。この間接指導のところでタブレットはもう一人の先生になるわけですよね。この使い方を子どもたちは知っています。複式の学び方を、大きな学校には学んでほしいなと思います。それで活用力が上がってくると思います。なにも文章で自分の考えをまとめなさい、ではなくて、言葉でいいんです。キーワードで。少しでも表現できるように、教師はうまく進めて褒めていく。そうすると子どもはもっと表現したくなっていきます。以上です。

尾脇市長　…　ありがとうございます。福里委員はいかがでしょうか。

福里教育委員　…　娘と息子が使っています。１年過ぎていい意味で慣れてきました。中学生は毎日持って帰ってきます。垂小に関してはほとんど持って帰ってこないので、授業で使ったとかいうことも私は聞いていないので分からないのですが、中学生の場合は、普通は帰ってタブレットを使うのでしょうが、息子はほとんどやりません。テスト前に先生がここを出すよ、

とタブレットで送ってきて、それを解くとか、タブレットで何かを提出するとか、そういうことはよく使っています。毎日タブレットを開いて、というのはなかなか定着していないです。他の方はやっているかもしれませんが。娘は、先日今村先生にキーボードアドベンチャーのことを聞いて、元々はローマ字が苦手なんですけど、キーボードアドベンチャーはとても喜んで取り組んでいました。その時は学校から「30 分以上はやってはいけません。」、「YouTube 等の動画は見てはいけません。」というのも持ってきていました。一つのツールが子供にとってすごくフィットしたみたいで、苦手なのに取り組んでいたのでやっぱりすごいんだなと感じました。経験差は学校訪問の時に私も感じていて、実際中学校になってどうなるのかな、差にならないのかな、と思うんですけど、あまり子供は言わないです。「これができないんだよね。」とか「あの人がすごくできるんだよね」とか言わなくて、あまり気にしていないようです。意外と中学生になったら、先生方が指導されて足並みそろえてできるのかなと。心配していたけど、中学校でそんな話を聞かないので、意外と大丈夫なのかもと感じています。触れる機会がもう少し多くあれば、子供たちも先生にいろんなツールを学べて、どんどん吸収していくのかなと思いました。以上です。

尾脇市長　…　ありがとうございます。持ち帰りも負担があると思いますが、持ち帰った方がいいよね、となったら必然的に持ち帰るようになるということですよね。中学校はいろいろ対応できると思いますけど、学校またはクラスによっては違う状況もあると思います。いかがでしょうか。

学校教育課今井課長　…　持ち帰りについても、持って帰っても家で何したらいいの、という子供が多いわけですよね。YouTube 観たりする子がいたり、問題が発生するわけで、やはり目的意識を持って帰すことが大事です。学校教育課の今村、永倉はてきぱきできるんですけど、私が一番できなくて、でも慌てることはないんです。なぜならタブレットを使って授業することがないから。まだ余裕があるんです。やはり必要に迫られれば、人間ってするんですよね。自分が必要とすれば。そういうきっかけづくりとなるよう、QR コードですぐ使えるように、学校に提案をしています。QR コードの作り方の研修も行っております。それが広まっていけば、今日はこの QR コードから入ってみて、と学校から指示があると、今日はこれをやるんだと目的意識を持ってやれると思います。そして今度は自分から見つけてみようという気持ちも湧いてくる。そのきっかけをつくるためには、いかに簡単にできるか、ということも一つのポイントだと思います。以上です。

尾脇市長　…　GIGA に関して、未来を見て、そこに到達するにはどう活用するかということですが、よりシンプルにできるよう取り組んでいければ、到達も早いかと思います。教育長、いかがでしょうか。

坂元教育長　…　福里委員がおっしゃった、子どもにフィットというのは大事なキーワードです。何をフィットさせるか。ローマ字を学んで、さらに英語を学

んでいくことを意識しながら、教師がどんな指示をするのか、あるいはどんな目的を持たせるのか、ということを持ち帰るときも大前提とすることも大事です。子供同士でも横のつながりで「僕はこんなことをしたんだけど、どう？」みたいに話せたらいいと思います。良き家庭学習になるよう、見守ってくださっている保護者の方々にも、お互いにいい情報を共有していって、それが市内の共有財産となって、学びを楽しむ子供たちがどんどん増えていくと思います。以上です。

尾脇市長　…　ありがとうございます。

葛迫委員、いかがでしょうか。

葛迫教育委員　…　はい。GIGA スクール構想。時代とともにどんどん変わってきて、我々はタブレットが使いにくいこともありますけど、そういう中で子どもたちはタブレットを使って新しい環境の中でGIGAスクール構想に取り組んでいるところですが、やはり新しいものをやっていくと確かに負の部分も出てくるんですよね。こういうことはしてはいけないよ、とかそういうことがこれからは見えてくると思います。そうしたときに垂水市の学校は表彰を受けていますが、常に情報をキャッチしていかなければいけないと思います。改革案を早めに見つける必要があると思いますけれども、いかがでしょうか。

学校教育課今井課長　…　今回このような結果が出たことによって、一番何もできない私が非常に嬉しかったです。チームとして頑張っている中で、渡邉先生との出会いも教育長が急に言い出して、今からいくぞって言うんですよ。渡邉先生が他の市町村に取られないうちに、県の委員もされていたので他の市町村に取られる前に、垂水市が確保して、それに端を発してという形でですね、そういう、一瞬を逃さないということが大切です。また、活用方法については、子供たちが写真を撮るというのもありましたよね。それが写真展の応募に繋がっているなど、いろんな活用方法があるので、その子が持つもの、いい賞が取れたらよかったねと褒めてあげる、いろんなところで活躍できると思います。要はテストの点数を上げることだけが目的ではなく、これを活用することでもっと広がってくるものって、可能性って多いんじゃないかなと思っています。ですから、いろんな活用方法で、なにより子供たちにとって、「できた」という実感だと思います。その経験が少ない子がどうしても取り残されている。その「できた」という経験をなによりも与えてあげる。それは教師でなくても友達でもいいし、親でいいし、おじいちゃんおばあちゃんでいい。そうやって広がっていくことが垂水市のこれからの楽しみだと捉えています。以上です。

坂元教育長　…　今の課長の延長上の話をしますと、やはり子供の新たな学びを促進するということです。では、保護者はどうするか。その新たな学びの中での子供の成長を楽しむ。では、地域市民は。子供と保護者の学びの改革を楽しむ。もっと大きな構想で言うならば、GIGA スクール構想は改めて教育の良さを発信する大きなツールであると思っています。やればやる

ほど、どんどん課題が出てきます。結論を言いますと、課題は成果であり、次の改善目標です。負の部分も我々は真摯に受けとめながら、改善していきたいと思いますし、もう令和５年度を見据えております。プログラミング教育や、社会教育課での活用など、先を見据えながら、しかし足元をしっかり固めながら階段を上っていければと思っています。以上です。

尾脇市長　…　ありがとうございます。

今回このような表彰も含めて、教育長を中心としたアクセル力を私自身も高く評価しています。アクセルを踏めば風が当たります。いろいろメリットもあるけど課題も出てくる。基本的にみんなディフェンス力はあるけど、アクセル力は意外と無いんですよ。だから、前に進むことによって課題も出てくるけど、見える世界が変わってくるので、人口減少、過疎化の時代は、先頭を切る人はしっかりとアクセルを踏まないと、人口減少に伴ってジリ貧になって衰退していくことになったときに、未来が厳しい。マイナス要因はあるけど、大きな流れの中で、時代がそこに向かいますから、これまでは整備面でも進んでいなくて遅れていましたが、コロナのピンチをチャンスとして、それに乗っかって進めていくことができました。地方にあって、地方の資源やいろんな豊かさを感じながら、学習環境も遅れないというふうに、積極的にアクセルを踏んでいただいた結果、いろいろ課題はありますけれども進んでおります。過渡期なので、今までの常識から考えると違うことをやっていかないといけないので、課題はもちろんあります。取りこぼしなくみんなが平等にと配慮しながらも、後退するわけにはいかないので、前に進んでいくといった意味で教育長中心に、渡邉先生という心強いアドバイザーもいらっしゃるのでありがたいと思います。

まだまだあると思いますが、ここで、本市の GIGA スクールアドバイザーでいらっしゃいます、渡邉様に総括的な意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

渡邉准教授　…　はい。では、アドバイザーとしてお話しさせていただきます。改めまして、渡邉です。よろしくお願いします。

県の委員をさせていただいておりますけど、昨年度ある自治体の中学校英語の授業で、いろんな活用の仕方がありましたが、最後にそこの教育長が「まあでも、直接話すのも大事だよね」と話されたんですよね。え？と思って、そこでそうおっしゃいますか、と。坂元教育長がお話しされていましたけど、学校それぞれのリーダーシップを発揮してもらわないと、もちろんボトムアップで、みんながやりましょうとなればいいんですけど、いろんな差があるという話も先ほどからありますように、やっぱり上から「やるよ」とならないと。そういう意味で垂水市さんは坂元教育長のもと、県内でもしっかり進められているという印象です。

GIGA スクールの今後の取組について、先ほど尾脇市長が教育制度の変革だとおっしゃいましたけど、GIGA だけではなくて教育自体が変わって

いくところなので、改めて資料にGIGAという言葉は出しませんでした。去年の１月時点の中央中の様子で、タッチペンで書き込みをしていました。タッチペンで授業はできるんだけど、やはりタイピングをしていかないといけないです。こちらは新城小の５年生の様子ですが、この子は学習に支障のない速さが身に付いています。やはりどれだけさせているかだと思います。私は基本の操作スキルが専門ですが、初めて一人一台使う子どもたちが、どれくらいタイピングが上達しているか調べたときに、日常的に使うと上達しているんです。こちら青い方は視写入力と言って、黒板の内容をそのまま書き写すことを言います。こちらは思考入力と言って、作文のように自分で考えながら入力します。それらの能力を調べたところ、視写入力はだんだん伸びていくんですが、思考入力の結果は横ばいでした。これは、伸びないということではなく、問題がたまたま難しかったのかもしれませんが、とにかくタイピングのスピードは伸びるんです。では何がネックになっているかというと、考えて打つときに、思考する能力は別に育てないと、いくら入力スピードが速くなっても、何かを考えて生み出す力が無いと、トータルで速くならないことが分かりました。

格差の話が出ましたが、先ほどの結果は、先進的に使っている４年生と６年生の一クラスずつのものになりますが、統計的に学年での差はありませんでした。本当に学年での差がないのか、速い子と遅い子のグループに分けてみたところ、速い子のグループでは当然６年生が速いです。ところが、遅い子のグループでは４年生のほうが速かったんです。これは学年どうこうではなく、キーボード入力とは複合的な能力ということです。キーボードを見ないで打つということはもちろん、それをローマ字にして、漢字に変換して、それ以外にもいろんなことがあるので、６年生はいろんな躓きがありますので、できる子はスムーズにできる、できない子は全然できないというように差が開いてしまいます。もう２年近く経つので、皆様が感じていらっしゃるように、スキルについても気を付けていかないといけないと感じます。また、検定をされるということですが、私は操作スキルの調査もしていますので、いろいろとご協力できると思います。GIGAが入って１年間で全国の学校25学級、都道府県10ヵ所ほど跨って、どのくらいできるようになったか調査しました。例えば、プレゼンテーションのアプリは結構使われていて、学年が上がるほど使えるということはありますが、３年生くらいでも８割は使えます。一方で、これから必要になってくる、コメントをつける力に関しては、３年生が４年生より使えていたりします。学年の差というよりも、経験の差です。やらせていればできただろうし、この学年はあまりやらせていなかたんだろうと分かります。先生が指示的に使わせるよりも、いつでも好きなように使うようにしたほうが、子供たちはどんどん使えるようになります。それから、日常的に使う簡単な操作は当然使えるようになりますし、タッチタイピングやショートカットは学年が上がったほう

ができるんですが、コメント共有などはやはりさせたかどうかになると思います。

全国学力学習状況調査の結果ですが、発表の仕方を工夫している子供たちは、学力が高いです。発表させれば学力が上がるということではありません。また、先生が研修を受けているところは、子供たちにたくさん使わせているという結果があります。垂水市さんも研修をたくさん行われていますので、今後子供たちにいい影響をどんどん与えることは間違いないと思います。

春日井市のことがありました。春日井市は古くから取り組んでいらっしゃいますし、私も小学校で教員をしていたときから見に行っていました。今回の全国大会での発表で、10 年間の取組があるとおっしゃられていましたが、中学校に端末が導入されたのはそんなに早くないと思います。なぜ春日井市でそこまで活用が広まっているかというと、先進的に取り組んでいる学校があるということ、そして、その学校が取り組み内容を市内にきちんと伝える仕組みができているからです。校内研修をされるときに、先生方はお互いに学びますけど、春日井市では公開校内研と言って、市外の先生方へ公開しており、今こんなことに取り組んでいて、こんなことがポイントだ、こんなことが課題だというように、しっかり全市に伝わるような仕組みがあるので、それが今に繋がっています。私は全国大会の役員をしていました。地元の方々がすごく協力してくださって、それはみんなで一緒にやろうという雰囲気ができているから、先進的に進んでいるんだと思いました。市を挙げて先生方みんなでやる仕組みができるといいと思います。

個別的な学びと協働的な学びを一体的に充実させるという話がありました。実際に学級全体の課題もありますが、一人一人が自分で今日の授業の課題と今日のゴールを決めて、みんなの問題を解決しながら自分の問題を解決するような、それらが同時進行でできるようになればと思います。発表の仕方も、発表してください、ではなく、子供たちが自分の課題に取り組みながら、分からないところはお互いに聞くなど、話し合いながら個別のことをやる、また、グループで一緒に課題に取り組むみたいな形で。最後に先生がまとめるという形は無いです。子供たちが自分でまとめた結果を振り返っておしまい。私も授業を見て、こんなふうになっているんだと吃驚するくらい授業が変わっています。全部がこれを目指してくださいというわけではありませんが、個別的な学びと協働的な学びの一体的な取組とはこういうことなんだと分かったところでした。春日井市の学校では学習リーダーと言って、特別なことではなくて、当番制で子どもたちがリーダーになって、授業の最初に学習の進め方を話し合って実行していきます。そのような学習ガイドの取組は、複式学級では実現しています。先生がいるにも関わらず子供たちが進めるという、学習者主体の授業をぜひ普通学級で広まっていくといいと思います。

経済産業省は、これからは経済界と教育界と一緒に考えていかなけれ

ばならないと資料を作っているんですが、結構なボリュームなので、一部抜粋して、これからの人材に必要な能力がいろいろ書いてありますが、細かな能力を見たときに、私たちが受けていた教育はもちろんですが、つい最近までは、注意深くミスが無いようにするとか、真面目にやるとか、そういうことが求められていました。しかし、先行き不透明なこれからの子供たちは、何が問題か、どう解決するか、あるいは新しいことを生み出していく、ということが求められています。私たちとは違った種類のことを求められています。そうなったときに、子供たちは、教わらなくてもというのは言い過ぎかもしれませんが、とにかく自分たちで学び続けるということが大事になってくると思います。究極的には、子供たちが自分で学習を進めて、必要な時だけ先生が手助けをする。課題解決の工夫も大事だけど、まず子供たちに興味を持たせて、取り組んでいければいいと思います。もちろん多様性も大事ですし、自分一人で学び続けることは難しいので、周りに教わりながらいろんな情報を共有しながら一緒にやっていく力が大事になっていきます。ツールをどうやって使うか、思考力を伸ばして表現させるということが大事です。調べたりまとめたりは当たり前です。情報をネットから、先生から、本から収集することは当然ですが、それを友達との話し合いの中でも育てていく。先生方もそのような機会を作っていくことが必要だと思います。先ほど言った通り、私たちのときには ICT 機器は使わなくてよかったかもしれないけど、少なくともこれからの子供たちは使わざるを得ない、使って当たり前の教育が求められているので、そういう精神的なものを育てていかなければならないと思います。先生方も使って当たり前だし、先ほどの時代の流れも認識していく必要があると思います。子供たちには先生の意図しないことも伝わっています。先生が、端末が苦手だということは子供に伝わるということです。ですので、先生も、分からないけどとりあえず使ってみようという前向きな姿勢で使っていただきたいし、そのためには先生たち同士の情報共有が大事です。春日井市の先生たちのように、常に情報共有をして、先生たちも学び続けることが伝わると、子供たちも意欲的に学んでいけるのかなと思います。以上です。

尾脇市長　…　渡邉様、ありがとうございました。本当にそうだなと思います。いろいろありますが、世の中なかなか思うようにいかないし、新しい変化の中で学んだことが通用しない時代ですから、問題解決をしていく能力が非常に求められていると思います。そのツールとして ICT 機器があるんですけど、やはり好むと好まざるとに関わらず、一緒に問題解決していかないといけない時代になっています。そのことを踏まえて明るく楽しく、でもできたらよりいいよねという形で、好きこそなんとかという言葉もありますし、楽しんで取り組めればいいのかなと思います。

（３）その他に移りたいと思いますが、事務局から何かありますか。

企画政策課　…　事務局からは特にありません。
二川課長

尾脇市長　…　全体を通して、各委員の皆様から何かございませんでしょうか。
（「なし」という声あり）
最後に教育長からいかがでしょうか。

坂元教育長　…　はい。去年に引き続き、GIGA スクールを議題に開催させていただきました。ありがとうございました。委員の皆様方からは、褒められるのも嬉しいですが、厳しめの意見も我々にとって非常にありがたいです。課題をどう改善していくか、子供たちのより良い教育のためのご意見だと受け止めておりますので、これからも厳しめのご意見や励ましをいただければもっと頑張れると思います。GIGA スクールはあくまでもツールでございます。大事にしなければいけないことはもっとほかにもあるのかもしれませんが、今はまず GIGA を中核にしていきながら、また、読書や芸術も大事ですので、伸び伸びと学び、いい自然を感じていい食を食べながら大きく成長してほしいなと思っております。以上です。

尾脇市長　…　それでは、本日の協議事項は終了いたしましたので事務局へお返しいたします。

企画政策課　…　ありがとうございます。

二川課長　本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。
これをもちまして、令和４年度第１回垂水市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。